



校種間連携で " つながる学び "

幼稚園、小・中・義務教育学校、高校、特別支援学校や大学などの学校種間の連携を通じた学びの連続性について、生徒たちの視点から紹介します。

環境・食育パートナーズクール事業

横畑恵大さん（須知高校 食品科学科3年生） ～校内意見発表会でパートナーズクールを語る～

平成 29 年6月、横畑さんは須知高校の校内意見発表会で、「人の輪をつくる」と題し「環境・食育パートナーズクール事業」での中学生との交流を通して、自分の気持ちの変化や相手の気持ちに向き合うことの大切さについて発表しました。

「祖父が自分のことを思い上手く伝わるように考えながら説明してくれたことを思い出し、祖父の姿を自分に重ねて笑顔で中学生に教えたこと。そして心の通じた『ありがとう』から、自分の想いをきちんと表現すれば伝わること、人と関わり繋がることで自分の世界が大きく変わることを実感することができました。」と想いを込めて語りました。

横畑さんは、この校内意見発表会を経て須知高校代表に選ばれました。



第 65 回近畿学校農業クラブ連盟大会で優秀賞を受賞

横畑さんは校内意見発表会の後、パートナーズクール事業に直接触れることはありませんでしたが、第68回京都府学校農業クラブ連盟大会の意見発表Ⅱ類（ヒューマンサービス）部門において優勝し、8月 23・24 日に開催された近畿学校農業クラブ連盟大会には京都府代表として出場して優秀賞を受賞しました。

竹内彩人さん 藤本宗磨さん（須知高校 食品科学科 3年生） ～小学校でのパートナーズクールの経験～

竹内さんと藤本さんは、和知小学校5年生の時（平成 22 年度）環境・食育パートナーズクール事業を経験しました。ソーセージ作りを教わる中で、手際よく食品を加工する高校生の姿はカッコ良く映っていたようです。二人は、「僕たちの質問にも親身になって一生懸命教えてくれた姿に『僕もこんなお兄さんになりたい！』と、憧れるようになりました。」と話してくれました。

平成 29 年6月には須知高校生として、同じパートナーズクール事業で蒲生野中学校の生徒にピザづくりを指導しました。「僕たちが実際に、そのような人になっているかどうかはいささか疑問ですが、僕たちが小学校の時に教えてくれた先輩方のように、今日来てくれている京丹波町の子どもたちに精一杯教え体験してもらい、多くのことを学んでくれたらうれしいし、僕たちの意欲にもつながっています。」と後輩にエールを送っていました。



南丹教育局ホームページ
<http://www.kyoto-be.ne.jp/nantan-k/cms/>

南丹教育局

検索



人の輪をつくる

横畑 恵大

「ありがとう。」授業の一環で行ったパートナースクール事業で中学生から言われた一言です。私は、子供の頃から人と関わることが好きではなく、今も人と接するのはあまり得意ではありません。本音を言えば嫌だとさえ感じていました。これまでは誰かに感謝の言葉をかけてもらっても「あ、いえ、別に…」と、そっけない答えしかできませんでした。そんな自分が、中学生に「ありがとう。」と言われたとき、その言葉がとても嬉しく、笑顔で「こちらこそ、ありがとう。」と返すことができたのです。このとき、自分の心の大きな変化に気付きました。

私の所属する公園管理コースでは、地元の小中学生との交流学习であるパートナースクール事業で中学生にタケノコの掘り方を教える機会がありました。「どう教えたらうまく伝わるのかな。」と、考えながら指導をしていましたが、人と関わることの苦手な私は、中学生に対してどのように接していいか、わからなくなりました。どう説明しても伝わりにくく、自分でも何を喋っているのか分からなくなったのです。そのとき、私に農業を教えてくれた祖父のことを思い出しました。

私は、幼い頃から祖父の農作業の手伝いをするがありました。野菜の水やり・除草などの管理作業、収穫から道具の片付けなど、一つ一つ教えてもらいながら手伝いました。ですが、仕事を覚えることが苦手な私は、祖父に何度も質問を繰り返しながら手伝いました。祖父はいつも、その日の作業が終わった後に「ありがとう。ちょっと苦労したけど、頑張ってくれたな、また何かあったら手伝ってな？」と言ってくれました。そう言っている時の祖父は、とてもいい笑顔でした。「うん、また手伝うよ。」心地いい疲れのなか、私も思わず笑顔になっていました。一つ一つ分かりやすく丁寧に教えてくれた、おじいちゃん。おそらく祖父は、私のことを想い、うまく伝わるよう考えながら説明してくれていたんだろうな、と思ったのです。

私は、祖父の姿とそのときの自分の気持ちを思い出し、祖父の姿と自分を重ねて中学生に笑顔でタケノコの掘り方を伝えました。すると中学生は、満面の笑みで「ありがとう。」と感謝の言葉を向けてくれたのです。そのとき、これまでただの受け身だった感謝の言葉と、自分からはたらきかけてもらった「ありがとう。」の言葉は全く違って聞こえました。自分の想いは、きちんと表現すれば伝わるんだと感じました。

私は、「人と接するのが苦手」と、自分の中で決めつけてしまい、そっけない態度やあやふやな態度をとってきました。そんな自分が人と関わり、繋がりをもつことで、自分の世界がこんなにも大きく変わるんだと、実習をとおして実感できました。それほど多くの人と関わることのない仕事だろう、という消極的な理由で農業をしたいと思っていました。しかし今は、進学し、たくさんの仲間や地域の方々と深く関わり、人と人を繋げる農業をしたいと思っています。自分の作る農産物や農業への取組が、農家と農家をつなぎ、地域と地域をつなぎ、生産者と消費者をつなぐ、たくさんの人の輪になってほしいと思います。私に農業を教えてくれて、笑顔をくれた祖父の姿を思い出し、自分も農業と笑顔で、地域の人々を繋ぐ輪をつくりたいと思います。

平成 29 年 6 月 8 日 須知高校 校内意見発表会（原文のまま）